

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名：		学域名：	部局長名：
薬学部		医歯薬学域(薬)	上原 孝
目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等	
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等	
【教育】 ①大学学部入学早期から「薬学研究入門(研究室滞在型授業)」を開講し大学院進学を視野に入れた研究活動への動機づけを図る。 ②薬学教育第三者評価(分野別認証評価)を踏まえPDCAを実施する。 【学生支援】 ③合理的配慮が必要な学生に対する支援を(継続)実施する。 【入試関係】 ④志願者増に向けて、全学の高大連携活動に積極的に参加すると共に、薬学部独自の高校訪問を実施し、各高校の進路指導教員や受験生に、薬学科・創薬科学科の特徴を説明することで理系志望の受験生の薬学志向性向上を目指す。 【留学生】 ⑤留学生獲得に向けて、協定校・協定機関と情報交換を行うとともに、私費外国人留学生の受入れに向けて在学中の私費外国人留学生の就学支援を組織的に行う。	(2-1) (4-1) (7-1)	【教育】 ①「薬学研究入門(研究室滞在型授業)」を開講し、1年次22名、2年次35名の学生に対して、研究活動への動機づけを図った。 <u>本活動は近年の博士課程・博士後期課程への進学に貢献している</u> 。一方、希望者が非常に多いため、さらに枠と機会を増やす必要がある。 ② 第2期薬学教育第三者評価(分野別認証評価)を踏まえたPDCAとして、学修成果ポートフォリオシステムの運用および進級時DP達成度評価を開始するとともに、薬学科卒業研究実習の評価方法ならびにカリキュラムの見直しを行った。また、昨年度から自由科目として開始した医療系多職種連携教育を、昨年度までの改善点を踏まえて本年度も実施した。さらに、次年度からの必修化を見据え、全学生を対象とした効果的な実施体制の構築に向けて、 <u>医学部および歯学部と協議を重ね、次年度の実施計画を策定した</u> 。 【学生支援】 ③合理的配慮が必要な学生を支援するとともに、障がい学生支援室と共同で「 <u>移動にサポートが必要な場合の避難訓練研修</u> 」を実施した。 【入試関係】 ④総合型選抜(大学入試共通テストを課すもの):薬学科5.6倍、創薬科学科4.0倍、計4.9倍 一般選抜前期日程:薬学科3.9倍、創薬科学科2.3倍、計3.1倍 全学の高大連携活動、地方自治体等による進学説明会および学部独自に実施した戦略的高校訪問において、学生や高校の進学指導担当教員に薬学科・創薬科学科それぞれの特徴を説明した。 【留学生】 ⑤薬学科:私費外国人留学生選抜において2名合格となった。 サンカルロス大学(フィリピン)から本学博士課程に2名の留学生の受け入れを開始した(10月～)。その後もサンカルロス大学の保健学科長および薬学部長とは密に連絡を取り、次年度の新たな留学生の受け入れに向けた協議・調整を継続している。大学間協定を締結してるハイフォン医科薬科大学の若手講師1名が2021年10月に博士課程に進学し、2025年9月に学位(博士)を取得した(早期終了)。	
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等	
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等	
【地域社会との連携、社会貢献】 ①地域の職能団体や学術団体と連携し、薬剤師や薬学関係職種就業者のリカレント教育や卒後教育を目的とする研修、あわせて、広く一般市民や地域住民を対象に、医療や保健衛生にかかる知識を啓発涵養するため、公開講座を開催する。 ②中高生の薬学への理解を深めるため高大連携事業を推進するとともに公開講演会を開催する。 ③同窓生・卒業生・在校生の交流を促すため、岡山大学ホームカミングデイその他の行事にあわせ、来学者が気軽に会える機会を設ける。 ④来学者や地域の方々に薬学と自然とのかかわりを理解してもらうため、各種講演会や地域開放型行事にあわせて附属薬用植物園の一般公開を実施する。 【国際交流・協力】 ⑤成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)、サン・カルロス大学(フィリピン)、ウエイン州立大学(米国)との連携をさらに深めるとともに、交流協定(新規)締結に向けてバンメート大学(ベトナム)との協議を進める。	(6-1) (7-1)	【地域社会との連携、社会貢献】 ①岡山県薬剤師会の協力を得て公開講座「現代の薬学」を7月に開催した。薬剤師、医療関係者及び一般の方、計46名の参加があり、各講義では活発な質疑応答が行われた。地域の薬剤師の卒後教育のための有意義な機会を設けることができた。 ②高校生および一般向けに、公開講演会を6月に開催し、133名の参加があった。多くの方に薬学研究に触れて、より興味を持ってもらう機会となった。 ③ホームカミングデイにおいて、附属薬用植物園の一般公開および薬学部同窓会と共催による同窓生シンポジウムを開催した。同窓生シンポジウムでは、薬学部卒業生に講演を頂き、在学生、卒業生および教員等と親睦を深める機会となった。 ④公開講演会や公開講座および高大連携事業による高校生の大学訪問(計11回)を受け入れ、さらに、附属薬用植物園を公開して薬用植物について解説を行い、薬学と自然とのかかわりについて知識理解を深めてもらう機会を設けた。 ⑤2025年9月に成均館大学薬学部(韓国)でジョイントシンポジウムを開催し、当薬学部の教員が6名参加した。このシンポジウムは国際交流の一環として行われ、それぞれの大学における学部・大学院教育プログラムの紹介と両大学教員が最近の研究成果を発表した。今後も交流を続けることで合意し、次回は岡山にて開催してさらに両学部の交流と共同研究を含めた議論を深めていく予定である。3月にはウエイン州立大学(米国)への訪問も実施した。	
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等	
【部局組織の改善強化】 ①中期目標・中期計画の目標の達成のため、部局内での議論の活性化を図るとともに、多様なFD・SDや面談を通して、大学及び部局での問題点や改善点の共有を行う。 【ダイバーシティの推進】 ②令和10年度末までに女性教員割合19.5%を達成するために、今年度以降の薬学系教員の後任補充については原則、女性限定公募や女性優先公募を行い、さらに、研究・教育の場で女性教員が活躍しやすい環境を作る等受入体制を整備するなど、積極的に女性教員の獲得を行い、目標値の達成を目指す。加えて、若手教員の獲得を目指す。 【効率的・戦略的な予算配分・執行】 ③全学及び部局の予算がひっ迫しているため、省エネ意識の喚起等により経費節減を行い、各執行状況について見直し、引き続きより効果的な予算執行を目指すとともに、積極的に外部資金の獲得を目指す。引き続き、科研費に関しては採択率75%を目標とする。	(11-1) (11-2) (13-1)	【部局組織の改善強化】 ①助教・講師・准教授の各教員と学部長との1 on 1 meetingを実施し、相互理解を深めるとともに、教育・研究・科研費申請・運営・キャリアパスについて、助言を行った。 【ダイバーシティの推進】 ②女性教員採用割合100%であった。教授1名・助教2名の女性限定公募を実施し、令和7年10月に助教1名、令和8年4月に教授1名の採用を決定した。また、ウーマン・テニユア・トラック教員の選考を行い、令和8年4月に助教1名を採用することとなった。さらに、今後の人事に関しては、引き続き原則、女性教員を充当することとし、特に若手教員においては女性限定公募を実施する。 <u>女性教員割合は9%→13.9%→16.7%と着実に増加し、来年度中に20%を目指す</u> 。 【効率的・戦略的な予算配分・執行】 ③省エネ・経費削減だけでなく、教職員全体の働き方改革の一環として、 <u>9月と3月の毎週金曜日16時に早期退勤を促す独自の取組として「薬学部e活」を行い、光熱水料の削減を図った</u> 。学部内の共通機器の再整備を実施し、空きスペースをオープンラボとして運用した。外部資金、特に科研費に関しては、学部で積極的な取り組みを行った結果、 <u>新規・継続を含めて採択率83%(36人中30人)となり、これまでの最高値となり、目標値を大きく上回った</u> 。その中、 <u>上位種目(基盤B、基盤A、学変A計画研究)の割合は31%(11人)</u> であった。	

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。